



2026年
7月8日
No.A26-03

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

中東調査会月間活動誌 (2026年6月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) 中東情勢オンライン講演会

・6月11日(木)、登利谷正人 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授「中東・南アジア境域の水資源をめぐる問題と地域動態－パキスタンの対イラン・アフガニスタン政策を中心に－」



2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行【会員限定】

- ・2026年6月号(2026年7月8日付)
1. ガザ戦争(第2四半期の動き): 停滞する状況
 2. GCC: GCCとアメリカとの外相級会合開催
 3. ヨルダン: イランの攻撃を受け防空・対ドローン協力を強化
 4. アフガニスタン: パキスタン軍がアフガニスタンを再び空爆
 5. トルコ: ソマリアでシャバーブを標的とした空爆に関与

6. イスラエル: ネタニヤフ首相、権力基盤強化のため予備選に介入

7. イラン: ナンの公的価格が2倍に引き上げ
※内容はホームページをご参照ください。

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/)

(2) 中東かわら版の発行

- ・No.26「[イスラエル: イランとの軍事衝突の被害と代償](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月1日)
- ・No.27「[トルコ: 最大野党・共和人民党への司法判断と党内対立](#)」(上席研究員 金子真夕、6月1日)
- ・No.28「[クウェイト・バハレーン: アメリカ・イラン間の交戦が激化](#)」(特任研究員 高岡豊、6月3日)
- ・No.29「[チュニジア: ナフダ運動の秘密組織事件で懲役10年から終身刑の判決](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月5日)
- ・No.30「[イスラエル: イランが「停戦合意」に違反してミサイルを発射](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月8日)
- ・No.31「[イラン: イスラエルに対して弾道ミサイル攻撃を実施](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月8日)
- ・No.32「[チュニジア・リビア: 移民問題をめぐり強まる主権意識と国際機関不信](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月8日)
- ・No.33「[アルジェリア: サハラ縦断ガスパイプライン着工と地域的影響力の再構築](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月9日)
- ・No.34「[イラン: イスラエルとの停戦を発表](#)」

(研究主幹 斎藤正道、6月9日)

- No.35「[イラク：サッカーイラク代表チームの選手がアメリカ入国時に長時間取り調べを受ける](#)」(特任研究員 高岡 豊、6月10日)
- No.36「[イスラエル：揺らぐネタニヤフ人気と連立維持政治](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月10日)
- No.37「[イラン：「アジア・チーター」の推定生息数が27頭に増加](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月10日)
- No.38「[イラン：米軍との間で2日連続の軍事衝突](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月11日)
- No.39「[イスラエル・パレスチナ：入植者が礼拝者のいるモスクを襲撃](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月15日)
- No.40「[イラン：米国との戦争終結で合意](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月15日)
- No.41「[モロッコ：移民を背景に進む受刑者移送、犯罪人引渡条約](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月16日)
- No.42「[イスラエル：レバノン政府の統制不全とヒズブッラー攻撃の論理](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月16日)
- No.43「[レバノン：イスラエルによる攻撃が続く](#)」(特任研究員 高岡豊、6月17日)
- No.44「[イラン：2026年サッカーW杯のイランの試合で革命前の旗が振られる](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月17日)
- No.45「[トルコ：サウジアラビアと現代版ヒジャーズ鉄道構想を推進](#)」(上席研究員 金子真夕、6月19日)
- No.46「[ヨルダン：死刑を9年ぶりに執行](#)」(主任研究員 平寛多朗、6月22日)
- No.47「[イラン：米国との和平協議が開始](#)」(研究主幹 斎藤正道、6月23日)
- No.48「[エジプト・トルコ：米国・イラン協議の陰で競う仲介外交の成果](#)」(上席研究員 金子真夕、主任研究員 平寛多朗、6月23日)

- No.49「[オマーン：ホルムズ海峡の通過についてのイランとの共同声明](#)」(特任研究員 高岡豊、6月24日)

※内容はホームページをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/kawara/>)

(3) 中東分析レポートの発行 【会員限定】

- No.3「米国とイスラエル関係の今後——悪化する米国民のイスラエル認識——」(協力研究員 中島勇、6月10日)

- No.4「2022年抗議行動後に進展したヘジャーブ形骸化——米イスラエルによる2026年攻撃とイラン社会」(客員研究員 山崎和美、6月23日)

※内容はホームページをご参照ください

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/report/)

(5) その他の活動

- 東京外国語大学が開講する単位認定科目「国際社会をひもとく A/中東を理解するキーワード」へ当会研究員が出講した。

⑦ 政治と宗教(特任研究員 高岡豊、6月3日)

⑧ 権威主義体制(上席研究員 金子真夕、6月10日)

⑨ 過激主義(特任研究員 高岡豊、6月17日)

3. その他 (要人往来)

- 1日、高市首相は、イランのペゼシュキヤーン大統領と電話会談を行った。
- 2日から5日にかけて、エジプトのアブドゥルアティー外相が訪日し、茂木外相と会談した。
- 15日、茂木外相は、イランのアラーグチー外相と電話会談を行った。
- 16日、茂木外相は、イスラエルのサル外相と電話会談を行った。
- 17日、茂木外相は、オマーンのバドル・ブーサイディー外相と電話会談を行った。

- ・29日、茂木外相は、クウェイトのジャービル・アル・アフマド・アル・サバーハ外相と電話会談を行った。
- ・16日、岩屋外相は、イランのアラークチー外相と電話会談を行った。
- ・20日、岩屋外相は、イスラエルのサアル外相と電話会談を行った。

4.7月の予定

- ・7月31日（金）、8:30～10:00、トップ・ミーティング（田中浩一郎 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）、於：オークラ東京 プレステージタワー7階 「メイプル」

※やむを得ない事情により、日時や会場が変更になることもございますのでご了承ください。また、この他にもイベントを開催することもございます。詳細等と併せまして、配信メールやHPをご参照ください。

[\(https://www.meij.or.jp/event/\)](https://www.meij.or.jp/event/)

*会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。

*ログインに必要なIDとパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。